

室蘭工業大学環境科学・防災研究センターについて

室蘭工業大学環境科学・防災研究センター長 杉岡正敏

当センターは「環境科学」について「学術研究をいっそう発展させ、その成果を地域・国際社会へ還元するとともに、産官学連携を推進し、豊かな社会の発展に貢献する（本学の基本理念と目標より抜粋）」ことを目的に、平成16年10月28日、表-1に示すような3領域6部門の学内横断型の組織として設置したものです。

ご承知のように「21世紀は環境の世紀」といわれていますが、これは20世紀に爆発的に進歩した科学文明の発展に隠れていた環境汚染という負の遺産を如何にして低減させ、環境を元の状態に修復するかということを意味します。本学の環境科学・防災研究センターではこのような観点に立ち、地球環境の改善と地域環境の保全のために大きな貢献をしていきたいと考えています。

地域環境の保全に関しては環境浄化技術の開発を強力に推し進め、環境汚染物質の処理とリサイクルに関する研究を行うとともに、環境汚染に対する地域住民の不安を解消するように努力したいと考えています。平成19年からは室蘭市で道外15県のPCB廃棄物の処理が開始されます。市民の多くが環境汚染を危惧していますが、本センターではPCB汚染のモニタリング(評価)技術と処理技術に対する基礎研究を行い、この危惧を出来るだけ低減したいと考えています。このような市民との係わりを通して、本学が地域に根ざした大学として高く評価されるように努力したいと思えます。

さらに新エネルギーの開発をより一層推進し、水素エネルギー製造、小型水素燃料電池の開発および自然エネルギーの実用化などを目指した研究開発を積極的に行いたいと考えています。

環境保全・防災関連では自然環境の保全、自然災害に対する防災技術をはじめ、工業

都市型災害が室蘭市で発生した場合、その被害を最小限に食い止める防災システムの構築などを行いたいと考えています。さらに環境問題が生態系に及ぼす影響を社会科学的な視点から研究し、自然と人間にとってのあるべき姿の環境とはどのようなものであるかを深く追求していきたいと考えています。

本センターは「環境」というキーワードのもとに、学科の枠を横断的に超えた組織ですが、この組織の構成員各々の実力を十分に発揮し、大きな社会貢献を実現できる体制をより一層整えていきたいと考えています。さらに、本学のCRDセンター、機器分析センターおよびSBVLなどの各センター、さらには本学に設置された室蘭テクノセンターの産学官連携支援室とも協力体制を整え、本センターをより強力な組織に発展させていきたいと考えていますので、関係各位のご支援、ご協力を切にお願いする次第です。

表-1 室蘭工業大学環境科学・防災研究センターの構成

研究領域	研究部門	
環境汚染物質の評価・処理技術領域	環境汚染物質の処理技術部門	
	環境汚染物質の評価部門	
新エネルギー技術領域	水素エネルギーの応用部門	
	自然エネルギー部門	
環境保全・防災科学領域	環境評価と保全部門	環境の人的側面に関する研究（環境評価）グループ
		フィールドワークに基づく環境保全研究グループ
	防災科学部門	自然災害に関わる危機管理システム基盤の構築グループ
		防災科学グループ